

織部和宏(おりべ かずひろ)先生のプロフィール

昭和48年 神戸大学医学部卒

昭和50年12月 同大学院中退

昭和51年1月 九州大学温泉治療学研究所内科入局、
文部教官助手、外来医長、病棟医長

昭和55年4月～61年3月 大分赤十字病院第二内科部長

昭和61年4月 織部内科クリニック開業

専門科目：内科一般、循環器、消化器、心療内科における漢方診療



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

昭和58年6月頃、ひどい風邪をひき1ヶ月以上咳が続き西洋薬で治らない時、ツムラのMR(小田氏)と会って、91(ツムラ竹茹温胆湯)をすすめられた。

3日分の服用で完治し、ある種のカルチャーショックを受けた。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

内科、特に消化器、循環器領域で西洋薬の漢方医学的証による使い分け、副作用予防、単独で素晴らしい効果を経験している。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方単独 60%

西洋薬単独 20%(主として重症高血圧、高コレステロール血症、重症糖尿病等)

併用 20%(肺炎、中等度高血圧、潰瘍性大腸炎等)



◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

世界的には代替医療の中心として、日本では医療の中核を担って欲しい。効果的にも、医療、経済的にもその方が望ましい。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

風邪の「葛根湯」、咳の「竹茹温胆湯」、下痢・二日酔いに「五苓散」が良く効いている。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

傷寒論、金匱要略、類聚方広義、東洞全集をしっかり勉強し術は良医について習得すること。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

難病に苦しむ方、不安が解消出来ない方等々、一度「漢方専門医」に相談してみてください。

◆座右の銘、お好きな言葉などありましたら教えてください

温故知新

◆その他のご意見をお聞かせください

日本が誇る伝統医学を後世に残していきたい



注意:先生へのインタビューは、当会が2006年7月に行った内容です。